

基本政策 1 すべての世代が快適で暮らしやすいまちになる

【基本政策の方向性】

良好な都市機能や都市環境の形成を進め、活力と魅力があり、都市と自然の調和を保ちながら、すべての世代が快適で暮らしやすい“まち”となることを目指します。

5年後の目指す姿

「住みごこちの向上」

計画的に都市機能や都市環境を形成し、福祉施設や子育て施設等の誘導を進め、暮らしやすさと住みごこちの向上を目指します。

【数値目標】	現状値	目標値
現在の住みごこち（「住みよい」の割合）（市民意識調査）	74.0%（H30）	⇒ 83.1%（R7）

基本施策

1－1 市街化区域の土地利用

市街化区域においては、人口減少、高齢化に対応したコンパクトで暮らしやすい魅力的な住宅市街地の維持を目的に、市街化区域の土地利用を図ります。

【KPI】	現状値	目標値
市街化区域面積（住居系用途地域）	806.6ha(R2)	⇒ 維持（R7）

【主な取組】都市計画制度を活用した良好な住宅市街地の形成

福祉施設、子育て施設等を誘導するとともに、日常生活を支える商業、サービス機能を維持します。また、まちづくりに関する情報発信に取り組み、市民参加による良好な住宅市街地の形成を推進します。

【KSF】	現状値	目標値
まちづくりに関する情報発信	—	⇒ 実施（R7）

1-2 市街化調整区域の土地利用

自然豊かな風景を保全しながら、自然公園等のレクリエーション空間の整備を進め、暮らしやすさや生活環境を維持することを目的に、市街化調整区域内の土地利用を図ります。

【KPI】	現状値	目標値
市街化調整区域面積	1121.0ha(R2) ⇒	維持 (R7)

【主な取組】 優良な農地の保全

周辺環境と調和した集落内の生活環境を維持し、田園地に広がる生産基盤として優良な農地を保全します。

【KSF】	現状値	目標値
優良な農地の保全	380.1ha (R1) ⇒	維持 (R7)

1-3 計画的な土地利用の推進

周辺都市から人やモノが多く集まる複合的な市街地を形成するため、計画的な土地利用の転換を推進します。

【KPI】	現状値	目標値
土地利用転換面積	0ha (R2) ⇒	19.1ha (R7)

【主な取組】 シティゾーン（Bゾーン）¹の整備推進

埼玉県企業局との共同事業により、シティゾーン（Bゾーン）の整備を推進し、就業の場や人の集まる場を確保します。

【KSF】	現状値	目標値
Bゾーン企業誘致率（面積比）	0% (R1) ⇒	100% (R7)

関連する SDGs ゴール



自然環境を維持しながら、生産活動や雇用の創出をするための計画的な市街地の整備を図り、持続可能なまちづくりの推進を進めます。 関連ターゲット（8-3）



災害に強く、安全で潤いのある住環境整備や産業系等への土地利用の転換を推進し、包摂的かつ持続可能なまちづくりの推進を図ります。 関連ターゲット（11-3）

関連計画等

都市計画マスタープラン（令和3年度～令和22年度）

関連部署

まちづくり推進部 まちづくり推進課、産業振興課

建設部 建築指導課

¹ 本市のほぼ中央に位置し、国道254号バイパス（富士見川越道路）と県道三芳富士見線が交差する区域一帯。シティゾーンBゾーンは、交差部の北東側の区域